

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 4 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200759		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター己斐		
所在地	広島市西区己斐大迫二丁目41-3 (電話) 082-507-9577		
自己評価作成日	令和2年 10月 31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvogyoCd=3490200759-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvogyoCd=3490200759-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	新型コロナの影響により、広島県「特例措置」を適用。訪問調査は、令和3年4月2日に実施。

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご入居者が、その人らしくいつまでも穏やかに生活していただけるホームとして、利用者志向・ニーズをお大切に作るホームを目指している。 提携医、訪問看護ステーションと連携をとりながら日常的な健康管理を行い医療が必要になった場合に適切な対応が取れるよう医療連携をとり実施している。 地域住民との交流を深める為にイベントや地域の交流会等と一緒に参加し地域に密着したグループホームを目指している。 ※新型コロナウイルス感染予防のため地域交流は現在行っていない</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ニチイケアセンター己斐は、ボンバスで、国迫団地バス停から、徒歩5分の位置にあり、近隣には、公園や病院・治療院があり、閑静な住宅街の一角にある。建物は、グループ仕様で建てられ、広々とした間取りで、見守りしやすい構図になっている。管理者を中心にスタッフ全員が、「ニチイのほほえみ」との所以である、笑顔で自分らしくをモットーに「やりがいがあり、楽しい」と若いスタッフが、答えてくれた。又、職員による心をこめた手作りの食事は、好評である。現在、コロナ禍において面会は、難しいと思われるが、毎月一回発行される「ほほえみ通信ニチイケアセンター己斐」は、家族にとってホームの様子が分かり、楽しみにされている。それに加え、オンライン面会・窓越し面会をされる家族も居られる。職員は、ホーム内の行事を取り入れ、工夫しながら、ゆったりとした時間が流れている家庭的なホームである。</p>
---

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念・ホームの理念を朝礼時に唱和している。利用者が地域の一員として穏やかに暮らせるよう、ユニットごとに目標を設定し目標達成できるよう実践に取り組んでいる。	毎朝の朝礼時に法人理念・ホームの理念を唱和されている。「笑顔で自分らしく安らぎのある生活を支えます。スタッフすべての方が、ほほえんで過ごすことができるそんなホームをめざします。」を皆で共有し、その人らしく暮らせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、町内会行事(町内清掃、町内夏祭り、町内防災訓練など)に職員、利用者様と参加すると共にホームでの行事などの参加、ホームでの行事案内・通信を(毎月1回配布)町内回覧板で地域の方へ呼びかけ、地域の一員として交流を深める。	町内会に加入していて、清掃活動にも参加し地域の方とも触れ合っている。回覧板も回され、地域の事、ホームの事等、知ることができる。又、近所の方から、栗やトマト等、頂く事もあり、より良い関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎月1回の見学会や町内会行事などでホームを開放し「認知症・介護相談会」などを開催し地域の方たちに理解や支援を呼びかけている。 ※現在 新型コロナウイルス感染予防のため行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、町内会会長、オーナー様、地域包括センター様などを構成員として2か月に1回開催している。毎回たくさんの方が参加頂きホームの運営、活動状況、研修、質の向上に取り組んでいる。 ※現在 新型コロナウイルス感染予防のため開催していない。書面にて活動報告等を郵送している	運営推進会議を2ヶ月に1回、開催しているが、コロナ禍においては、行政の指導により書面開催としている。尚、構成委員(家族・町内会長・オーナー・地域包括支援センター・介護保険課等)に対しては活動報告書を郵送している。ご意見や助言等あれば、皆で検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ホーム内での催しなどの相談や連絡を行っている。また、運営推進会議開催案内および報告を送付している。 ※現在 新型コロナウイルス感染予防のため開催していないが書面にて報告を行っている	運営推進会議の議事録を送付している。又、地域包括支援センター主催で認知症カフェ開催を話し合ったり、他の事業所との関わりが持てるよう支援があり、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修により全ての職員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う事態になった場合は、関係者に速やかに連絡・相談し同意を頂いた上で行き、その後の解除に向けて毎月定期的に身体拘束委員会にて検討を行う定めとなっている。	毎月一回、身体的拘束委員会を開催している。職員全員が、どこかで参加できるよう取り組み、身体拘束をしないケアへの取り組みを実践している。玄関は施錠しておらず、気配りは欠かせない。スピーチロックについても話し合いの場を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待研修を定期的に行っている。事例を元に問題提起し話し合い、「しない」「させない」「見逃さない」をスローガンにし意識の向上に努めている。		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見制度の研修を行いスムーズに行えるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の事業所でのケアに対する取り組みや利用料金、起こりうるリスク等、また、利用者の状態の変化による契約解除に至る等を含み詳しく説明をし同意を得ようとしている。また、法改正や運営規定変更時による契約内容の変更が起きるときも運営推進会議で報告し、また個別に説明をし同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各ユニットでの会議、ホーム全体での会議を開き情報共有をし話し合い利用者本位の運営を心掛ける。毎月「ほほえみ通信」を作成し日々の様子、行事等の様子をお知らせしている。	利用者や家族等が、気軽に声を掛け易いよう、心掛けており、意見や要望を聞いている。今は特に面会の問い合わせが多い。面会は、難しくなっているが、オンライン面会やベランダ・庭から、窓越しで面会して貰っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議・ユニット会議での研修を行い意見を述べられる体制を作っている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り職員の意見や要望を聞くよう心掛ける。個別面談も必要に応じて行っている。	管理者やリーダーは、日々の業務の中やユニット会議等で、職員の意見や提案を聞いている。特にコロナ禍において、職員のストレス解消に気を配り、時には、個人面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアアップ制度の活用、身体技術研修等の参加によりスタッフのやりがいや技術能力を身につけ一定基準の昇給制度あり。処遇改善手当を毎月、処遇改善一時金を年に1回支給。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修では入社時に採用時研修(時給者含む)や管理者研修を定められており、ホーム内では毎月ホーム会議等でテーマを決め勉強会や研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の交流会へ参加し、情報交換を行っている。認知症カフェの参加。 ※現在 新型コロナウイルス感染予防のため中止している		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接で生活状態・心身状態を把握し必ず直接本人に会ってご本人の思いと向き合い、不安を理解し受け入れられるような人間関係に努めていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者を取り巻くご家族様の状況、これまでの経緯について聞くようにしている。ご家族様が求められている事を理解しどのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時ご本人様やご家族様の思いを確認し相談を繰り返す中、信頼関係を築きながら支援の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者から料理の方法などを学び日常生活の中でも家事等で得意分野やで力を発揮できるよう関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの様子を伝え、共に本人を支えていく同じ思いを共有し支援していく関係を築いていく。コロナ禍中の面会についてはタブレット面会を既に導入しており、対面の面会についてもコロナウイルス感染予防対策を万全にした上、今後実施していく予定で家族に通知している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	町内に元々お住まいの利用者様がおられ散歩に出られた際にご近所さんとお話しされたり、近く公園、スーパーに行き思い出話をされる。ホームの行事等に地域の方が来られ利用者様とお話しされたりと馴染みの人や場所との関係を築いている。 ※現在新型コロナウイルス感染予防のため行っていない	今までは、家族の協力があり、盆・正月には自宅に帰り、馴染みの人や場所へ行く機会があったが、コロナ禍においては、出来ていない。今は、近所を散歩の際に出会った方達と挨拶を交わしたり、町内会長も親しく声を掛けて下さり、馴染みの方との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し、リビングの席を工夫したり利用者様同士の関係がうまくいくように職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去されたご家族さんがホームに尋ねてこられた際は必要に応じて相談支援に努めている		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用し、今までの暮らし、本人様の思いを汲み取り可能な限り本人様の意向にそった暮らしが出来るよう心掛ける。	入所時のアセスメントやセンター方式を活用して、ご本人の生活歴、趣味、希望等を聞き取り、新聞購読・編み物・読書・生け花・畑作り・草取り等、本人本位のケアになるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にアセスメントでご本人様やご家族様からの生活習慣を聞き取り、把握しサービスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察、健康チェック、記録等の強化職員間の連携に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを開催し、現状気になる点を意見交換しより良い暮らしが出来るよう課題とケアのあり方を本人様、ご家族様で話し合い介護計画を作成している。	本人、家族の意向を聞き、又、日頃の様子や気になる点を業務管理日誌に記入し、ユニット会議等で、皆で課題を話し合い、担当者会議を開催して、介護計画を作成している。通常6ヶ月に1回見直し、その間、変化が見られた時には、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に介護記録を作成し身体状況、日々の様子や本人の言葉、出来事を記録に残し職員で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	問題が発生するとミーティング等で話し合い利用者が安心して暮らせるよう支援を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会、地域包括支援センター、消防署、駐在所等の地域の方々に協力していただき安心な暮らしが出来るよう支援していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の提携医以外は緊急な場合を除きご家族様の対応としご家族様の協力のもと、かかりつけ医の受診が適切でスムーズに医療を受けられるよう支援に努めている。	当事業所の協力医療機関をかかりつけ医としており、2週間に、1回往診がある。訪問看護・歯科医は、週1回。皮膚科から、2週間に1回の往診があり、利用者にとって、適切な医療が受けられるように支援している。	

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様一人一人の様子を把握し的確に看護師に伝えられるよう日々の様子観察を怠らないように体調に変化があれば朝礼等で申し送り、定期訪問時に相談や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し病院関係者との情報交換・相談に努める。また、退院時にもホームでの受け入れがスムーズにいくよう医療機関からの情報の収集に努めている。入院中、ご家族様との情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、ご家族様、主治医、訪問看護師を交えて話し合いを行っている。ご本人の思い、ご家族様の思いを汲み取りグループホームで出来ることを支援している。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明をして同意を頂いている。重度化した場合(例:末期がん)、家族・医師・訪問看護師・管理者・職員等でカンファレンスを行い、方針に沿ってチームで支援している。(痛みの緩和をしながら、最期を向えることが出来た。)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急救命の講習を受講、応急手当の方法等の研修を行っており緊急時の対応は職員に周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	社内研修では入社時に採用時研修(時給者含む)や管理者研修を定められており、ホーム内では毎月ホーム会議等でテーマを決め勉強会や研修を行っている。	消防署には自衛消防訓練通知書を提出し、年2回、避難訓練を実施している。通報・避難経路の確認・避難誘導・消火訓練等を行い、夜間想定も行っている。地域のハザードマップからは、外れているが、非常災害研修を行い、避難場所確認等、話し合っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人一人に配慮した声掛けを心掛けている。	年1回、法人で個人情報に関するテストがあり、接遇研修等も行っており、利用者一人ひとりの人格及びプライバシーを尊重し、日常生活が送れるよう配慮しながらケアに努めている。声掛けで気になる点は、スタッフ間で、注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様ご自身で出来ることを見つけ本人様のペースに合わせ声をかけ自己決定することの喜び・満足感へ導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを尊重しその時の状態や環境に配慮し思いを汲み取り支援している。		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	3か月に1回散髪に来ていただいている。コロナ感染予防対策として全理容師さんに2週間の健康チェックを行っていただき、ご家族様にホームでの散髪について同意書を頂いた上、本人の意向にそって行っている。更衣については本人の好みで整えられるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様と職員で準備、盛り付け、片付けを行っている。見学会などでおやつレクレーションをしたり、行事食で季節を感じてもらい食事が楽しみなものになるよう提供していく。	2ヶ所の食材業者から、交互に購入し、食事作りをしている。利用者は、野菜の下ごしらえ・盛り付け・食器拭き等、出来る事を職員と一緒にしている。時には、畑で収穫した胡瓜・ブロッコリー・大根・ゴーヤ等が、食卓に並ぶ。献立委員も行事食等、食事が楽しみになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人記録に水分量、食事摂取量を記入し一人一人の状態を把握している。また、トロミ剤を使用したりキザミ食・ミキサー食等個人の状態に応じた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの声かけを行い利用者の力に応じた声掛け、見守りを行っている。週1回 訪問歯科による口腔ケア、検診を行って口腔状態の清潔維持に努めている。訪問歯科による月1回の指導や研修も年に1回行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄状態を記録にチェックし一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、時間起きに声かけを行い誘導しなるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら声掛けを行い、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個人記録に排便状態を記入していき、一人一人に排便状態を把握し、水分摂取を促し自然排便できるよう支援する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前に利用者の体調を確認し清潔が保てるよう支援している。体調が悪く入浴が難しい場合は清拭、足浴等を行う。拒否される利用者様には無理強いをせず気分の良い時に入浴してもらっている。	入浴は、週2回を目途に表情や体調を見ながら、気持ち良く入浴できるよう支援している。全介助の方も居られ、シャワー・足浴・清拭等で行う。一人ひとり湯を入れ替えながら、皮膚が弱い方、入浴剤を入れる方等、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人一人の状況に応じて安心して寝られるよう配慮している。お昼寝も個々にされたり、居室に誘導して休んでもらったりと状況に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し2週間に1回分包していただきマニュアルにそって服薬介助を行っている。服薬セットは薬の説明書を確認しファイルにセットする。服薬時に服薬担当と確認者の職員2人が確認し合い飲み込みまでしっかり確認している。		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人一人の生活歴や能力を活かしホームでの生活の中で役割を持って過ごしていただけるよう支援していく。洗濯をしたり、料理の盛り付け、食器の後片付けなどそのときそのとき、感謝の気持ちをお伝えしている。	/	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホームの回りを散歩したり、お庭のガーデニング、畑を見たり気分転換を行っていただく。	気候の良い時期は、体調を見ながら、近所を散歩したり、庭に出て、花を鑑賞したり、草取り等して、出来るだけ外気浴の機会を取るようになっている。	現在、コロナ禍においては、外出支援は、難しいと思われるので、コロナウイルス感染が終息後には、配慮しながら利用者さんの希望を聞きながら、少人数毎での外出支援が出来る様、期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にトラブルの原因になるため現金、貴金属などの持ち込みはご遠慮いただいている。各利用者様ごとにお小遣いをお預かりし買い物に出かけた際 本人様のお好みの物を購入できるよう支援している。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様ご家族様、知人等に連絡を取りたい時はご家族さんに確認を取り電話が出来るよう支援していく。友人、親戚等の手紙のやり取りも行っている。	/	
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間には季節を感じられるような作品、カレンダーを掲示し居心地よく暮らしていけるようなスペースになっている。浴室、トイレには使いやすい手すりが配置してある。対面式キッチンでリビング内全部が見渡せるよう配慮してある。	利用者は日中、居間兼食堂で過ごすことが多い。ユニット入り口は、手作りの風車やかわいい置物が並べられ、気持ちよく迎えてくれる。今の時期、特に換気を心掛け、時には窓を開けている。毎月、壁面には季節ごとに、利用者と一緒に作成した貼り絵等が、飾られている。広い居間は、運動会や夏まつり・音楽レク・初詣の行事等が行われ、職員も一緒に楽しんでいる。居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前に椅子があり、そこで利用者様が好きなテレビ番組を観られたり、気の合う利用者様同士が仲良くお話しされそれぞれ寛げるスペースとなっている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前使っておられた家具等持って来て頂くよう促したり、作品や写真等を持ってきて頂いて、ご本人様の居場所であるという意識を持って頂くよう工夫している。	入居時に本人と家族が相談しながら、馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、単筒・テレビ・机・椅子・ソファ・三面鏡・仏壇・家族写真・花等が本人好みに配置され、居心地よい空間で過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内バリアフリー設計で車椅子を自走できる方でも危険のない生活ができるようになっておりご自分でできる事は職員が見守り声を掛ける。浴室、トイレも手すりを設置し自立できるよう整備されている。居室、トイレなどがわかるよう表示等の工夫している。居室内等の動線は安全が確保できるよう配置している。	/	



ニチイケアセンター己斐

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

ニチイケアセンター己斐

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター己斐

作成日 令和3年4月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	ホームでの外出支援が出来てない。	季節に応じて散歩、外出行事を行い充実した暮らし作りを提供したい。	スタッフ全員で計画を立て、コロナ禍の中でも季節を感じる事ができるような外出支援を行っていく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。